

堺市のひきこもり支援

堺市ユースサポートセンター (H23年1月～)

- ひきこもり、ニート、不登校、非行などの困難を有する**39歳までの子ども、若者、そのご家族・関係者を対象**とした総合相談窓口
- ひきこもり地域支援センター(児童期)と、地域若者サポートステーションとしての機能も併設
- 相談内容に応じて、適切な支援機関の紹介、助言や情報の提供

堺市こころの健康センター (H18年4月～ *ひきこもり地域支援センター H23年4月～)

- 精神保健福祉士、心理士、保健師が相談対応
- **15歳以上(中学卒業)の方を対象**
- 精神科医師の意見を受け、適切な支援をご家族・ご本人とともに考え支援
- とくに精神保健の問題の見極めを大切にしている

ひきこもりに関する実態、社会情勢の変化

- 「8050問題」・・・長期化、高齢化
- 平成31年3月に内閣府の「生活状況に関する調査報告書」から、満40歳～満64歳のひきこもり状態にある者が、61.3万人である

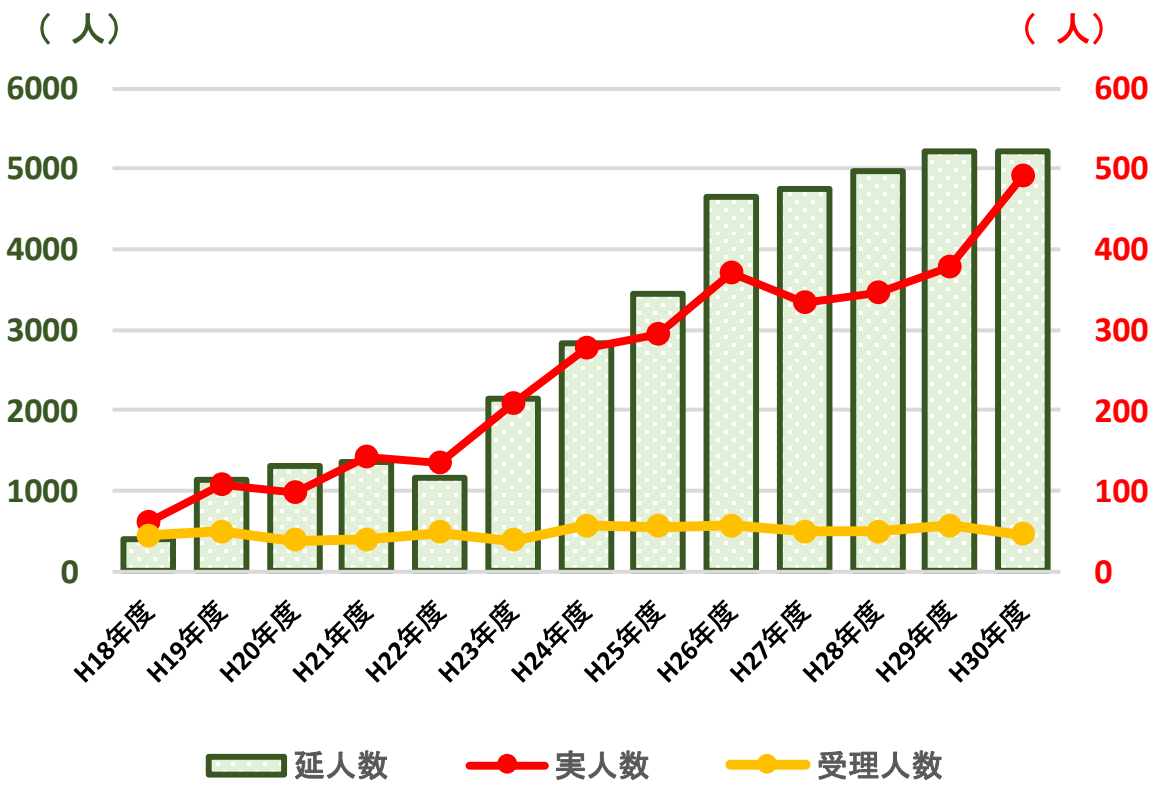
時期	該当者 (推計)	出現率	年齢	堺市 (推計値)
2010（平成22）年	69.6万人	1.79%	満15～満39歳	3,400人
2015（平成27）年	54.1万人	1.57%		
<u>2018（平成30）年</u>	<u>61.3万人</u>	<u>1.45%</u>	<u>満40～64歳</u>	<u>4,000人</u>

- 川崎市、練馬区の事件などの社会的反響

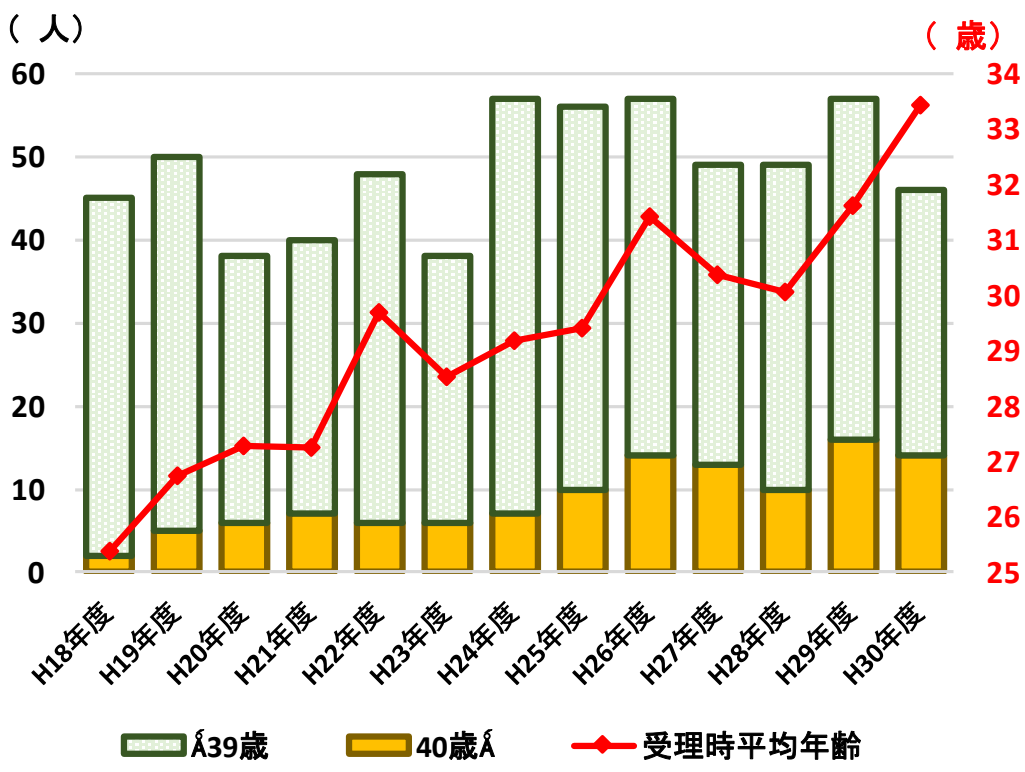
ひきこもり 相談人数、相談時の受理年齢及び平均年齢の推移

(平成18年度～平成30年度 こころの健康センター)

相談人数の推移



年度別受理時年齢および平均年齢



「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」

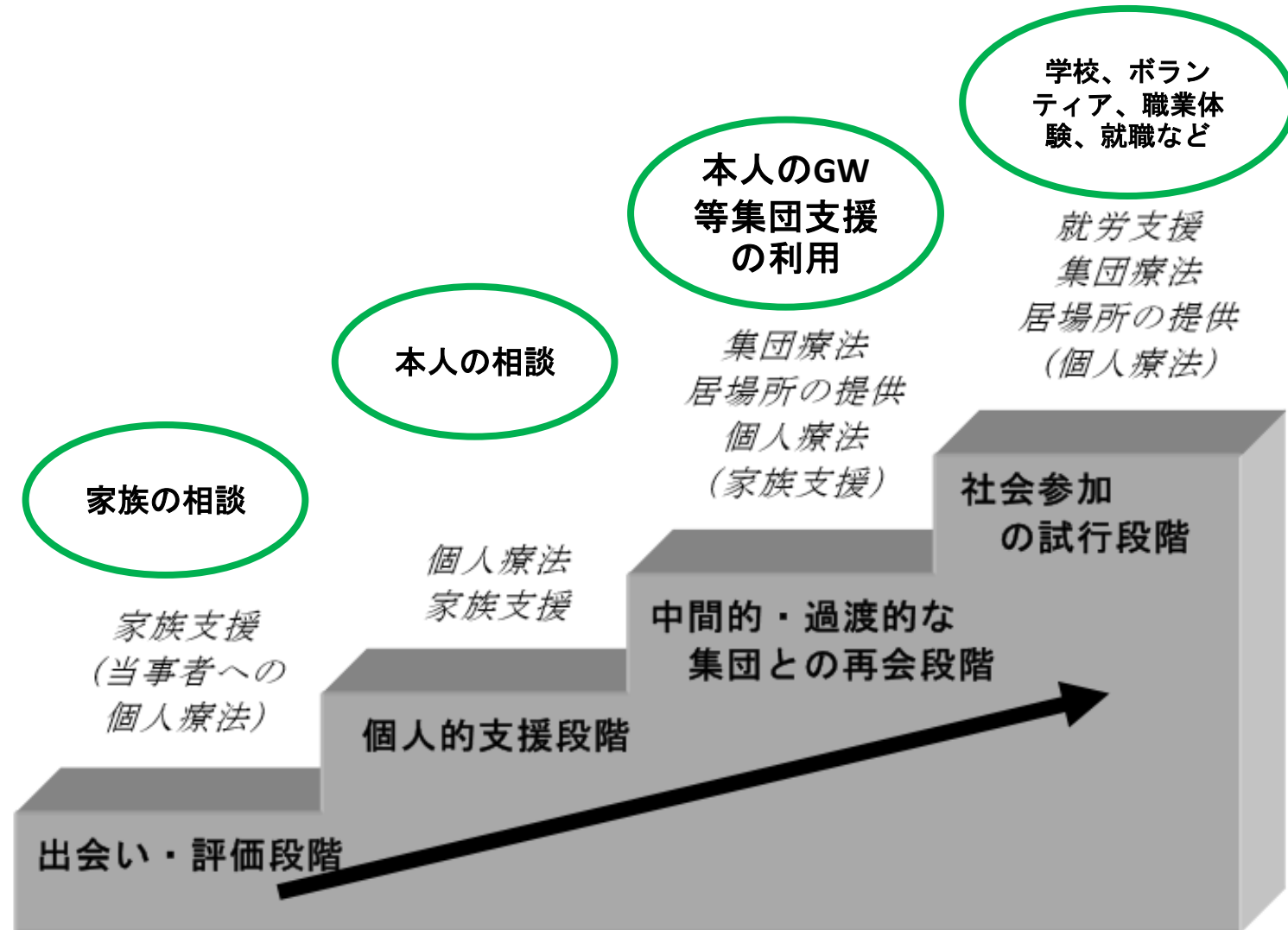
(厚生労働省 平成22年～)

ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン

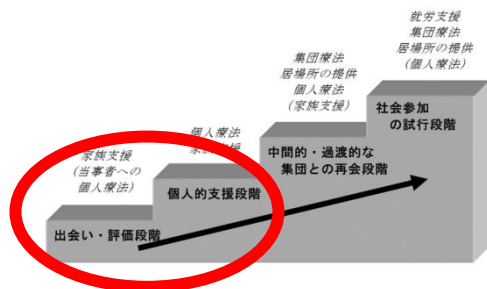


厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業
「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と
精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究（H19-こころ一般-010）」
(研究代表者 齊藤万比古)

1



第1段階「家族への支援」・第2段階「本人への支援」



◆ H30年度相談実績

電話	来所相談	家庭訪問	所外面接	手紙	メール
1,539	<u>2,782</u>	220	172	42	474

◆ H30年度に最初に来所した人

家族のみ	<u>79.2%</u>
本人/家族	4.2%
本人のみ	16.7%

◆ H30年度 of 全相談者の内訳

家族のみ	33.8%
本人/家族	<u>43.6%</u>
本人のみ	21.3%
その他	1.4%

◆ H30年度受理時のひきこもり期間

1年未満	18.8%
1-3年未満	25.0%
3-10年未満	25.0%
<u>10年以上</u>	<u>27.1%</u>

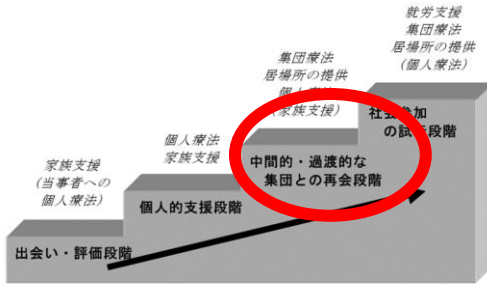


課題：高齢化と長期化

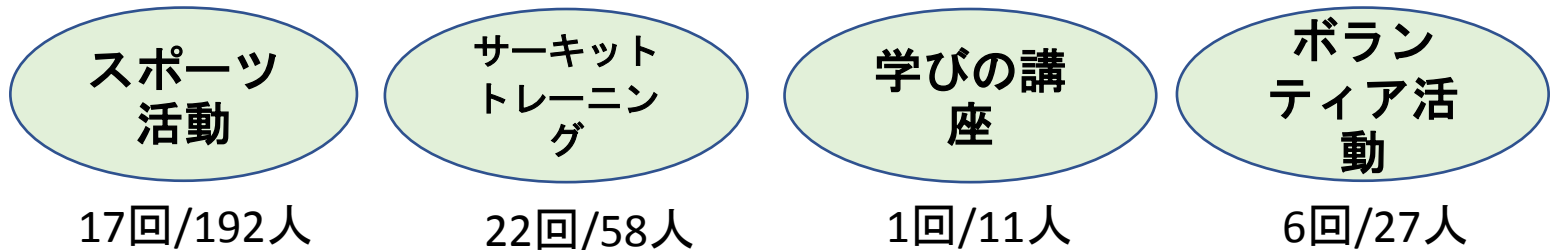
第3段階 「本人・家族への集団支援」

(“ひきこもりピア（本人）サポーター” による支援)

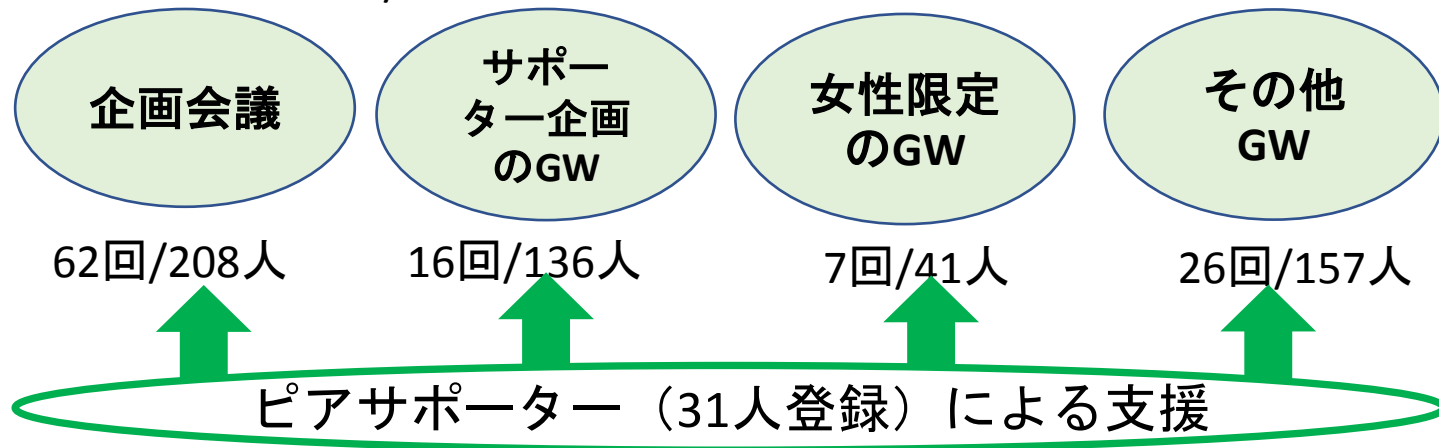
◆ 集団支援



内容	開催回数	延べ参加人数
本人へのグループワーク	157回	延べ830人
家族教室	7回	延べ67人
家族交流会	8回	延べ69人



課題：地域や他の制度で、参加できる資源（居場所）がない



ひきこもり支援の課題

1. 相談者数の増加（入口支援）

・・・8050問題を抱えた相談、健康問題、家族のみの相談、長期化、マンパワー不足

2. 居場所など次へつなげるところがない（出口支援）

...【推計】堺市4,000人・・・相談の受け皿が限られている

3. 支援機関からの相談の増加、特に地域包括支援センター

・・・ひきこもりについての対応がわからない

4. 「支援の諸段階（4つのステップ）」にあてはまらない

・・・家族のみの相談（本人の来談なし）、集団にはつながらない（本人のみの長期相談）

就労のステップにはとどかない（対人能力や社会性が少ない、強迫症状など疾患の課題、
気持ちが追いつかず回避的）など

ひきこもり支援 今年度の取り組み

◆健康に着目した運動プログラムの推進

…運動指導士、作業療法士による支援

◆ひきこもりピアサポーターの活用した、40歳代中心の集団支援への強化

…居場所づくり

…ひきこもりサポーター派遣の推進

◆関係機関の支援者等へ、ひきこもり支援の正しい理解、技術の提供

…対応の方法、家族の理解、支援をつなげる、地域で見守る

“孤立者を出さない、見過さない。早期の介入と適切な支援。”

ひきこもり本人とその家族を地域ぐるみで支える